

＜自己評価の基準＞ 【A】十分に達成できた 【B】概ね達成できた 【C】あまり達成できなかった

I 学習指導

1 今年度の取組目標と具体的方策	2 自己評価及び次年度以降の課題と対応策
① 基礎基本の定着を図ると共に、学習内容に応じて10の学習者を指導計画に位置付け、探究型、双方向型、課題解決型の教育手法やインクルーシブ教育の理念を取り入れた授業を実践する。 ② 本校の「グランドデザイン」のルーブリックに基づき、各教科科目別ルーブリックを作成し、観点別評価に基づく指導と評価の一体化を図る。 ③ 「わかる授業」「主体的・対話的で深い学び」を合言葉に、毎時間の授業では授業の始めに「本時のねらい」を明示し、授業の終わりに「本時の振り返り」を行う。ICT等の視聴覚教材を積極的に活用し、生徒一人1台端末の利活用を積極的に図る。 ④ 相互授業参観や校内研修・教科会等において、オンライン学習の併用を含めた指導方法や評価、IB的手法等について研究・研修を行い、組織的・計画的に教科指導力を向上させる。 ⑤ 年間授業計画に学習到達目標を明記するとともに評価計画を提示し、指導成果の検証を踏まえ、指導内容を改善する。 ⑥ 創立以来変わらぬ「国際理解科目」の成果と課題を整理し、グローバル化が加速する現状を踏まえ、科目の精査と改善、新企画立案等を図る。 ⑦ 課題研究において、「専門高校における民間OB等活用事業」（指定校2年目）の下、仮設検証型の論文作成や外部人材活用等、指導内容・運営方法の改善を図る。 ⑧ 図書館の開館時間を確保し、生徒の自主学習の時間と場所を保障する。	＜関連する数値目標＞ ○生徒による授業評価で「内容を理解している」80%以上、「授業内容に満足している」90%以上 ○1、2年生の家庭学習時間平均平日2時間以上 70%以上 ＜自己評価＞【B】（ ）内は前年度比 ●「内容理解」83%（+5%）「授業内容満足」81%（+1%） ●家庭学習時間（1～3年）平日2時間以上68%（+10%）、休日79%（+7%）。 ●TOEIC IP L&R 平均605点（+5点） ●校内研修（ZOOM活用と探究実践例、Teams活用法、IB教育の理論と実践）計3回実施 ●本時の「ねらい」20.4%（-5.6%）「振り返り」11.1%（-4.9%）「ICT活用」61.1%（-2.91%） ＜課題と対応策＞ ◎家庭学習時間の確保 数値目標 平日休日とも70%達成 ◎課題（宿題）の量の適正化と見える化の工夫 ◎本時のねらいと振り返りの実施80%目標 ◎ICT等の利活用80%目標、一人1台端末活用の環境整備と工夫 ◎相互授業参観等を通じた探究的・対話的授業（IB的手法） ◎国際理解科目の精査と課題研究の新たな授業展開と検証 ◎自習室としての図書館の開館時間の延長検討

II 進路指導

1 今年度の取組目標と具体的方策	2 自己評価及び次年度以降の課題と対応策
① 生徒のニーズや大学入試、高大接続教育等に応じたキャリアガイダンス、進路説明会等を実施し、3年間を見通した組織的・計画的な進路指導体制を構築する。 ② 進学実績データの整理・分析や、1、2学年の模試分析会の実施を通して、進路指導部・学年・教科が連携し、組織的な進学指導を強化する。 ③ 模試分析会では、業者による分析に加え、5教科による模試分析の結果報告を行い、授業及び生徒の進路指導へ反映させる。 ④ ポートフォリオや模試分析システムを活用し、生徒保護者のニーズに応じた面接指導を実施する。また、原則年1回全員、三者（担任・生徒・保護者）面談を行う。 ⑤ 進路指導部・学年・教科が連携し、総合型・学校推薦型選抜、一般選抜に対応する講習等の進学指導を組織的・計画的に実施する。 ⑥ IBコースの進路活動と連携し、組織的な海外大学進学指導体制を強化する。 ⑦ 多様な背景を有する生徒の進路指導に係る個別指導、日本語学習支援、面談等を強化する。	＜関連する数値目標＞ ○難関国立大学現役合格、国公立及び早慶上理ICU現役合格125名以上 ＜自己評価＞【C】 ●一橋大学1、東京外国語大学7名他、国公立大学19名合格（-11名）、早慶上智理ICU105名合格（-23名） ●海外大学74名合格（-8名） 国立台湾大学と協定締結（10月） ●模試分析会6回（±0回）、国内外進学者対象説明会・ガイダンス9回（±3回） ●長期休業中の講習75講座（+12講座） ●大学入学共通テスト実受験者124名（-43名） ●進路指導部進路通信5回発行（+3回） ＜課題と対応策＞ ◎進路指導部と学年・教科の協働作業と3年間を見通した組織的・計画的な進路指導のさらなる推進 ◎進路指導部と学年・教科の連携による多様な背景を有する生徒の進路選択に係る個別指導、学習支援、原則全員三者面談（担任・生徒・保護者）等の全学年での実施 ◎海外大学進路指導の充実と5教科模試分析と指導への反映

Ⅲ 生活指導

1 今年度の取組目標と具体的方策	2 自己評価及び次年度以降の課題と対応策
① 校内では、教員が積極的に声掛け等を通して、生徒に挨拶の励行を奨励する。また、身だしなみ、マナー、授業規律等については、ホームルーム・集会・授業等の機会に触れることにより、生徒の自律的な行動を促す指導を行う。 ② 登下校のルールや時間厳守を徹底させるため、生徒指導部と学年が連携し、登校指導・遅刻指導を計画的に行う。 ③ いじめや生命に関わる事故を未然に防ぐため、SNS ルールの周知徹底や生命に係る講話の実施、特別支援コーディネーターとスクールカウンセラーの連携強化を図るとともに、人権尊重教育を継続的に推進する。 ④ 盗難防止月間の取組やセーフティ教室、薬物乱用防止教室、長期休業前の生活指導を確実にし、事件・事故の未然防止に努める。 ⑤ 教科学習や特別活動を通して環境問題への意識を向上させるとともに、基本的な感染症対策の継続と校内美化清掃を強化する。 ⑥ 行事・委員会・部活動を含め、生活指導全般の取組において、生徒指導部内及び生徒指導部・学年が連携し、組織的な生活指導体制を構築する。	＜関連する数値目標＞ ○いじめ件数ゼロ ○盗難防止月間設定 2 回 ○1 日当たり平均遅刻人数減 ○学校評価アンケート「校内の清掃美化活動をきちんと行っていると思う」75%以上 ＜自己評価＞【B】 ●いじめ件数ゼロ ●盗難発生ゼロ ●1 日当たり平均遅刻人数 1.08 人（-0.32 人） ●「校内の清掃美化活動をきちんと行っている」66%（-8%） ＜課題と対応策＞ ◎生徒指導部と学年間の連携・コミュニケーションの強化 ◎衣替え期間廃止に伴う制服着用や TPO に応じた身だしなみ等規範意識の向上と生徒の自律的な行動を促す指導の継続 ◎生徒指導部と学年の連携による登下校マナーや時間厳守等の生活指導の徹底 ◎特別支援教育コーディネーターとスクールカウンセラーの連携強化、いじめや生命に関わる事故の未然防止及び特別な支援を必要とする生徒の指導の充実 ◎貴重品管理指導を始めとする盗難防止策の徹底継続 ◎校内の美化清掃の徹底と強化

Ⅳ 特別活動・部活動・健康づくり

1 今年度の取組目標と具体的方策	2 自己評価及び次年度以降の課題と対応策
① コロナ後の学校行事や部活動等の特別活動の新たな企画運営方法等の工夫と生徒の実態に即した主体的な活動を促し、国際高校独自の教育活動の充実と活動成果の向上を図る。 ② 部活動中の事故を防止するため、「部活動に関する活動指針」に基づく指導を強化するとともに、各部活動において事故防止対策を継続して徹底する。 ③ 部活動指導者や部員同士の協働・協力を重視し、競技成績や発表会等の成果、参加者の満足度を向上させる。 ④ 保健体育科の授業や体育的行事、部活動等において、指導目標に即した教育活動を行うことにより、体力向上及び心身の健康維持・増進を図る。 ⑤ 基本的な感染症対策を講じるとともに、特別活動等のさらなる充実を図る。	＜関連する数値目標＞ ○都大会入賞レベル以上の成績 2 部活動以上 ○体力テストの全項目で東京都の平均以上 ＜自己評価＞【B】 ●水泳部・令和 6 年度関東高等学校選手権水泳競技大会 第 47 回 全国 JOC ジュニアオリンピックカップ 50m 自由形出場 ・第 47 回 全国 JOC ジュニアオリンピックカップ 春季水泳競技大会 200m 平泳ぎ出場 ●第 17 回全国高等学校英語スピーチコンテスト 優勝（本校初） ●保護者参観での体育祭と飲食を伴う一般公開での桜陽祭実施 ●行事に対する満足度：生徒 90%（±0%）、保護者 97%（-2%） ●体力テスト：8 項目全てで男女とも都の平均を上回った。 ＜課題と対応策＞ ◎コロナ後の学校行事完全復活を経て、時代の変化に即した企画立案や運営の工夫と、各行事のねらいに応じた国際高校独自の教育活動の充実と発展 ◎働き方改革が問われる中での部活動の存在意義やあり方の再確認と活動内容の工夫と成果の向上 ◎体育授業及び部活動における事故の未然防止策の徹底と強化 ◎学校生活での感染予防の継続と特別活動等の更なる充実

V 教育課題

1 今年度の取組目標と具体的方策	2 自己評価及び次年度以降の課題と対応策
① コロナ後の国際交流復活と往来再開した昨年度のプログラム内容の充実と新企画の提案、姉妹校等の学校交流・生徒交流を組織的にを行い、その成果を検証する。 ② 英語コミュニケーション能力を向上させるため、第1学年でのオンライン英会話（2年目）やTOEIC IP等を活用し、成果検証・分析を踏まえた改善を行う。 ③ 広域避難場所としての役割を果たせるよう、地域や外部機関と連携した実践的な防災訓練及び避難訓練を実施する。 ④ ICT（SNS）を活用し、災害時等の情報発信を迅速かつ確実に行う。 ⑤ 在京外国人生徒に係る課題を整理し、関係部署・担当者が連携して、必要に応じた学習支援（日本語指導）及び進路指導を行う。 ⑥ 公開講座（こどもチャレンジ・体操教室）の実施、及びグランド・テニスコートの学校開放事業を計画どおり実施する。	<関連する数値目標> ○姉妹校等との学校交流・生徒交流3回以上 <自己評価>【A】 ●韓国姉妹校（仁川外国語高等学校）受け入れ（5月）姉妹校生徒80名、フランス連携校（リセ・ダグエール校）オンライン交流本校生徒13名参加、フランス連携校（リセ・サン・ブノワ校）受け入れ（11月）連携校生徒16名、アメリカドストノーダシップ研修（3月）本校生徒17名参加 ●Path-Finder Program（国内留学研修）本校にて実施（8月）本校生徒16名、他都立高校生徒15名 計31名参加 ●オンライン英会話 1学年英語1グループを除く全生徒受講（Global Education Network20指定校事業2年目） ●地域や関係機関と連携した防災訓練での応急処置、心肺蘇生、避難所運営としてトイレ・段ボールベッドの設置、ソーラー発電機の動作確認等（3月） ●こどもチャレンジ公開講座参加者17名10回、学校開放事業（テニス、少年野球・サッカー・ラグビー等）12日開放 <課題と対応策> ◎国際交流の完全復活によるプログラム内容の充実と新企画の提案 ◎地域や関係機関と連携した防災訓練や実践的な避難訓練による防災教育のさらなる改善と充実 ◎在京外国人生徒等の課題の把握・共有、及びサポート事業の活用等組織的・計画的な学習支援・進路指導の強化、進路実現 ◎公開講座及び施設開放事業の継続実施

VI 国際バカロレア

1 今年度の取組目標と具体的方策	2 自己評価及び次年度以降の課題と対応策
① DPの確実な実施に向けた課題解決と指導力向上を図るため、組織的・計画的に教科会や校内研修、IBO主催研修、授業研究の実施及び授業実践集の発行等に取り組む。 ② カリキュラム・マネジメントを徹底し、DP実施スケジュールに係る教育課程の改善に向けた検討を行う。 ③ 年間進路活動計画に基づき、生徒の進路希望に応じた情報提供やカウンセリング、面談等の支援を充実させるとともに、データ分析を生かした進路指導を強化する。 ④ 海外大学進学における諸課題（奨学金及び海外情勢）についての情報収集及び支援体制を強化する。 ⑤ 令和6年度以降のIB入試の在り方について、東京都教育委員会との協議を継続していく。 ⑥ 令和7（2025）年度秋に予定されているIBスクール再認定に向け、教育内容の改善と充実を図る。 ⑦ レギュラーコースへのIB教育普及への具体的な方策を検討する。	<関連する数値目標> ○フル・ディプロマ取得率100% ○進路決定率90%以上 <自己評価>【A】 ●フル・ディプロマ取得率100% 21名 ●平均スコア 35.0（45点満点）全員28点以上、世界平均29.2 ●進学決定率76.1%（-18.9%）（R7.5.30現在） ●校内外及び国内外の研修出張によるIB教育の最新情報の入手及び指導方法の改善向上、個々の生徒に応じた進路指導実施 <課題と対応策> ◎教員研修や授業研究による組織的・計画的な指導力向上の継続 ◎進路希望の実現に向けた進路指導の一層の充実 ◎海外大学進学における諸課題（奨学金及び海外情勢）についての情報収集及び支援体制の強化 ◎一人一人の生徒の進路希望に応じたカウンセリング対応や面談等の支援継続 ◎IBDP前倒しに向けた教育内容の精選とDP先行実施 ◎IB入選日程及びIB定数増に向けた都との協議検討継続 ◎令和7（2025）年度再認定に向けた資料作成及び都行政との打ち合わせ等の実施 ◎レギュラーコースへのIB教育普及への具体的方策の検討継続

Ⅶ 募集・広報活動

1 今年度の取組目標と具体的方策	2 自己評価及び次年度以降の課題と対応策
① 本校の取組を広く周知するため、ホームページの更新、Twitter の活用、「学校案内」の充実を図る等、計画的・組織的に教育活動を発信・広報する。 ② 基本的な感染症対策を講じた上で、年間を通じた募集対策を企画・運営し、フィードバック及び成果検証を確実に行う。 ③ 令和6年度都立高校PR事業（PR 学校紹介動画及び学校見学会補助等）の対象校として、積極的に動画制作に協力するとともに、ボランティア生徒の協力を得るなどして、説明会等の募集・広報活動に、全校体制で取り組む。 ④ 塾や多摩地区等における説明会に参加するなどして、募集・広報活動の範囲の一層の拡大に取り組む。 ⑤ 多様な志願者に対応するため、事前相談や資格確認に全校体制で取り組むとともに、課題については東京都教育委員会と協議相談しながら進める。志願者のニーズや受検者のデータ集積・分析を行い、募集対策や入学後の指導に役立てる。 ⑥ 学校正門横道路沿い掲示板の有効活用を検討する。 ⑦ PTA 各委員会との連携を活かし、広報活動の充実を図る。	＜関連する数値目標＞ ○HP 更新回数 170 回以上 ○学校施設見学会・学校説明会参加者数 4,000 人以上 ＜自己評価＞【C】 ●HP 更新回数 193 回（+26 回）X（旧 Twitter）253 回 ●学校説明会・合同説明会、授業公開参加 4,035 人（+356 名） ●施設見学会、学校説明会での生徒ボランティア延べ 363 名（+193 名）による校内案内多言語での実施 ●学校PR事業「#だから都立高」（8 月）参加 198 名（+162 名） ●入学者選抜学力検査応募倍率 1.89（+0.53） ●同窓会支援による学校正門扉上横断幕用ボード設置、生徒の活躍を横断幕 2 種類にて掲示 ＜課題と対応策＞ ◎ホームページ・X（旧 Twitter）や「学校案内」等の情報発信ツールの充実 ◎本校の良さを十二分に伝えるための生徒主体での広報展開シフト、校内外での積極的戦略的募集・広報活動の推進 ◎塾関係者対象の学校見学会の実施（4 月 5 月） ◎PTA との連携による開かれた学校説明会等の実施 ◎都の事業『都立高校 EXPO』を活用した生徒募集活動（7 月） ◎学校正門横掲示板の有効活用（年間）

Ⅷ 学校経営・組織体制

1 今年度の取組目標と具体的方策	2 自己評価及び次年度以降の課題と対応策
① 各分掌・学年・教科は、組織目標の設定、中間報告、年度末総括を行い、課題の把握と具体的な解決策について組織的に検討する。 ② 4 級職会議を定期的に開催し、学校の将来を見据え、学校全体や喫緊の課題等について、分掌の枠を超え協議し課題解決のための原案を作成する。 ③ 上記②において、令和7年度入学生教育課程（改編版）の継続検討事項や令和7年度 2,3 学年カリキュラムや授業時間割等について協議・提案する。 ④ C4th 等の適切な活用を推進するとともに、業務の効率化を図る。 ⑤ 服務事故防止研修やチェックシート等を活用した取組を通して、服務規律意識の向上を図り、服務事故ゼロを実現する。 ⑥ 経営企画室の経営参画を一層進め、全教職員との連携・対話を重視し、生徒・保護者の視点に立った教育環境の整備、適切な会計処理等を図りながら、本校のあらゆる教育活動の円滑化を積極的に推進する。 ⑦ ペーパレス化を促進するとともに、PDCA サイクルを徹底し、全教職員がコスト削減、迅速な課題解決、業務の効率化・平準化・縮減化・削減化に取り組み、超過勤務時間を削減する。	＜関連する数値目標＞ ○組織目標の明確化と課題解決への取組 100% ○個別超過勤務時間の削減 ○予算執行率 100% ＜自己評価＞【A】 ●組織目標の設定・中間報告・総括と来年度に向けた課題の抽出 ●4 級職会議年前半 9 回、課題研究プロジェクトチーム年後半 6 回、令和7年度「課題研究」（2,3 年）年間授業計画の作成、令和7年度入学生教育課程の改編に伴う 3 か年時間割作成・シミュレーション実施、C4th による成績会議資料の改善と全学年統一化、会議でのペーパレス化継続 ●服務事故防止研修年 3 回実施、服務事故ゼロ ●経営企画室内業務分担の平準化・協働化、国際独自の多様で複雑な業務への適切かつ迅速な対応と経営企画室内連携継続、外壁工事等の環境整備・安全な環境提供（今年度終了） ●予算執行率 99%（±0%） ●毎月 80 時間以上の超過勤務 2 か月以上の者 2 名（-2 名） ＜課題と対応策＞ ◎令和7年度入学生以降の新教育課程 3 か年の継続検討 ◎3 つの柱（外国語教育・国際理解科目・課題研究）改善策検討 ◎服務規律意識向上、服務事故防止研修実施及び事故防止の徹底 ◎「働き方改革」ライフワークバランスの一層の推進